

2026年4月：日本AI開発の歴史的転換点 — 「追従」から「独自の進化」へ

「LLM-jp-4」が日本語能力でGPT-4oを凌駕

- 12兆トークンの高品質な日本語学習 (NII、国立国語研究所、国会図書館連携)
- MoE (専門家混合) アーキテクチャの採用

日本語MT-Bench性能比較



【技術】



【政策】



国家戦略「ガバメントAI源内」

- 「第4の道」としてのオープンソース化 (日本独自の「透明性と信頼性」)



米性



中量



欧州

- 18万人の政府職員による大規模実証
- 国産AIエコシステムの育成 (NTTデータ, NECなど7社)

逆襲の切り札「フィジカルAI」

人手不足を「導入の原動力」に転換 (現場に労働者がいない現実)

ロボット大因としての圧倒的基盤 (世界シェア38%)



「活用のイノベーション」こそが勝ち筋 (松尾豊教授提唱, 現場実装力)

【戦略】

【産業】

15.8

大企業の**59.1%**がAIを組織的に活用

(2025年8月から15.8ポイント増加)

顧客対応の自動化精度が**15~20%向上** (国産LLM活用, コスト削減)

顕在化する「AI格差」 (大企業導入加速, 中小・建設業課題)

